

- ③ 自然教育部門と、CITY 部門との交流がいまだに上手くできていないこと
- ④ 後継者のなり手(特に若手と女性)が、なかなか出てきてくれないこと(魅力の欠如)
- ⑤ 組織内で何でもこなせることが多いので対外的な連携や接触が増えないこと(社会的な働きかけ不足で支持と参加が頭打ち)
- ⑥ 事務局等の組織運営に従事する人たちへの理解と支援不足(雇用化の検討)

NPO の存在意義は、社会の課題を解決し、社会的な価値を生み出すメッセージを発信することです。NPO 法人シニア自然大学校は、ピンチが起こるたびに、落ち込み眠れぬ

時を過ごしながらかこれをチャンスに変えるのだと自分に言い聞かせてきました。一人ではできないことも、ここでは同じ志を持つ仲間がいるからみんなで議論して課題を克服してやってこられました。会員の心が躍る目指すべき方向を定めて、25年前のシニア自然大学を立ち上げたことに匹敵する新しい事業を今、立ち上げないとシニア自然大学校の相対的な位置(①受益者からの信頼、②支援者からの信頼、③広く市民からの信頼)は確実に下がるものと確信しています。

がんばれシニア!

投稿 第29回全国「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰受賞

ソラードの会 酒井 孝

5月26日(土)滋賀県立長浜ドームにて皇太子・同雅子妃殿下ご臨席のもと“第29回全国「みどりの愛護」のつどい”が開催され、本年度の国土交通大臣表彰106団体の一つとして「ソラードの会」が受賞し、平成16年5月当会創始者の加納二郎さん、山田一子さんに同道して式典に参加して功労賞としての「感謝状」をいただいております。

ソラードの会の発足から15年が経過した今日、私たちの日頃の活動がこのように大きな栄誉をいただくとは夢にも思っていませんでした。この栄誉は15年間にわたって直接この活動に携わってこられた約120人の方々、そして何よりもこの活動を大きく評価されて、国に対してその推薦に努めていただいた大阪府日本万国博覧会記念公園事務所のみなさまに心から感謝いたします。

15年目のこの年は、私たちソラードの会を取り巻く環境が大きく変わろうとしています。この節目の年にこの栄誉を新しく心の糧として、その時々子どもたちに自然を守り、自然を愛する気持ちを伝えることに努め、次の時代に向かってすすんでいく思いを強くしております。

<ソラードの会・活動紹介文(主催者へ提出)>

当会は、平成16年春に次代、次々代を担う子どもたちに「自然や環境に対する理解や興味を抱くきっかけ作り」を提唱し、万博公園自然観察学習館のご協力をいただき公園を訪れる学校団体等への自然環境学習の提供に取り組みました。以来14年を経て会員数も68名となり平成28年度では本学習参加校は年間67校、児童等の参加者は5千人を超えるまでになりました。また学校団体の子どもたちのみならず、大学生や教職員の自然体験学習も行ない、間接的にも多くの子どもたちに自然の楽しさを伝えています。

子どもたちが自然をとおして自然への関心に目覚めれば“自然は自ら子どもたちの心を育てくれる”と信じつつ、今日も活動を行っており、その活動を万博記念公園のみどりの森は優しく見守ってくれています。

<加納二郎さんの思い>

会の発足から15年目に大臣表彰をいただいたことを心から喜んでます。ひとえに会員の皆さんの熱い思いと、万博公園自然観察学習館および大阪府のスタッフの方々の支援の賜物であり、感謝に堪えません。

長く続いた要因は ①会員の環境、自然に対する絶え間ない学習 ②会員が報酬を求めず支援する時にはいつも子どもたちからエネルギーをもらっていること ③会員がリタイア後に過去の思い出と対峙することなく、次の世代(子どもたち)へ自らの思いを託すことができていること ④そして、電子メールという手段で情報が会員に瞬時平等に伝えられていること、などではないかと思えます。これからも活動が末永く続く事を願ってやみません。



感謝状を受けたソラードの皆さん



会場の様子



毎日新聞 2018.5.26(土) 夕刊掲載記事より

「自然と仲間」
編集担当より
ソラードの会は、幾つかの事情により現在シニア自然大学校とは別団体ですが、全員が当会会員、修了生により構成されています。自然と仲間でも何度かその活動を取り上げてきました。